





学校教育目標

「自信と安心」
 自らとふるさとに誇りをもち、より多くの仲間とともに、夢や志に向けて主体的に活動する児童の育成

本校が育成を目指す資質・能力（布野っ子4大パワー）

 <p>生きて働く 知識と技能</p> <p>各教科等において習得する知識や技能。（活用可能な概念化された知識や技能まで含む。）</p>	 <p>調整力</p> <p>想像的・批判的に思考し、自分の考えを構築する力。</p>
 <p>主体性</p> <p>自ら進んで粘り強く取り組み、学びに向かう力。</p>	 <p>自らへの自信</p> <p>自己の成長を感じ、さらに挑戦する原動力。</p>

1 研究主題

主体的・協働的に探究する児童の育成
 ～布野 style（問い・対話・振り返り）の授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

昨年度は、布野 style（問い・対話・振り返り）の授業づくりを通して、主体的・対話的に探究する児童の育成を目指して取り組んだ。また、研究教科を算数科に焦点を充て、探究的な学びを目指していく中で、見えてきた5つのことが成果として挙げられる。

- ① 探究的な学びについて
 「数学的な見方・考え方を働かせ、既習を活用して解決し、新たな問いをもつ学習」を、算数科における探究的な学びと定義づけ、単元全体の探究に限らず、45分の授業で内容的な探究を実現すること。
- ② 問いのたねについて
 教師が意図的に仕掛ける「問いを生む工夫」を考え実践してきたことで、数を隠す、誤答を提示する、困り感を抱かせるといった、様々な手法があること。（別紙①）
- ③ 統合的・発展的に考えることについて
 同じだ！と共通性や既習とのつながりを見つけ、「違う数でもできる？」などと新たな問いをもつ児童を目指すために、既習の学習を提示したり、「同じように成り立つ？」と指導者が問いを示したりすること。
- ④ 教科の本質に迫る対話について
 トーキングタイムで話し合いの素地を身に付け、授業では見方・考え方を働かせた対話を通して思考しているかを教師がみとり、指導することも重要だということ。
- ⑤ まとめと振り返りの違いについて
 まとめとは、学習内容に関する記述、振り返りは、自身の学習到達度や学び方に関する記述をさせる、ということが明確になり、学習内容にとどまらず振り返りを充実させることで、探究的な学びの意欲が持続すること。

また、三次市学力到達度検査の「思考力・判断力・表現力」の内容において、3～6年生のすべての教科のうち市平均を上回る教科の割合が81%（16教科中13教科）という結果であった。これは、探究的な学びを意識した授業づくりを行った成果でもあると捉えている。

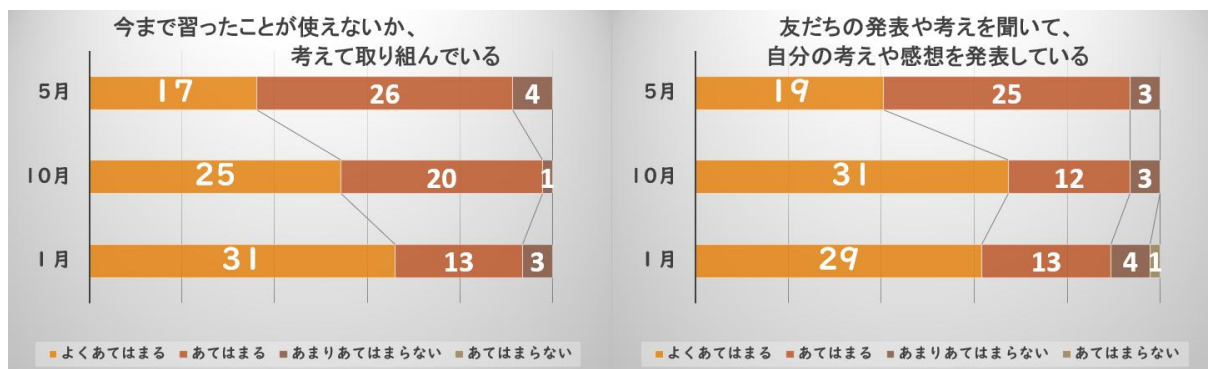
三次市学力到達度調査 思考判断表現 正答率

	国語	社会	算数	理科
3年	77.3 (+6)	70.4 (+8.2)	64.8 (+5.3)	69.2 (+8.6)
4年	74.2 (+4.3)	68.9 (+5.5)	72.8 (+3.5)	67.4 (-6.4)
5年	74.3 (+1.9)	68.9 (-1)	68.8 (+5)	74.5 (+7.5)
6年	71.4 (-4.2)	89.3 (+13.5)	75.0 (+11)	65.6 (+4.1)

国語科単元テストにおける「話すこと・聞くこと」の学級平均の割合を85%超えが多数あり、これは、トークンタイムでの聞き取り活動が成果につながったといえる。

	1学期	2学期
1年	97.5 (+12.5)	88.6 (+3.6)
2年	94 (+9)	92 (+7)
3年	86 (+1)	96.7 (+11.7)
4年	75.5 (-9.5)	86.2 (+1.2)
5年	94 (+9)	76.5 (-8.5)
6年	80.4 (-4.6)	94 (+9)

そして、主体性、協働性に関わる児童アンケートの結果では、全体的に85%を超える高い結果となった。



一方、課題としては、

- ① 三次市学力到達度調査における、「思考・判断・表現」のみならず、総合得点をあげること
- ② 「話すこと・聞くことのテスト」では、高学年になると達成率が低くなる傾向があり、長文を聞く上で何を捉える必要があるかを指導し、単元のみならず聞き取る力を育成していく必要があること
- ③ 各教科と総合的な学習の時間の往還の結果を見取るために、指標を見直すこと。
- ④ 表現スキルを増やし、多様な表現方法を選択・活用できる力を系統的に付けていくこと
- ⑤ 児童のよい姿を価値付け、児童と目指す姿を統一していくこと

である。この5点をさらに充実させることで、主体的・協働的に探究する児童の育成を確実なものにしたい。

そこで本年度も、引き続き、「問い・対話・振り返り」の3つの柱を基本とした「布野 style」の授業づくりを

意識し、各教科等と総合的な学習の時間で育成された資質・能力を往還させながら、主体的・協働的に探究する児童の育成を目指していく。そして、昨年度からの取り組みにおける伸びしろを検証したい。

3 研究仮説

「問い」「対話」「振り返り」を軸に、見方・考え方を働かせた探究的な授業づくりを行い、各教科等と総合的な学習の時間で育成された資質・能力を往還させることで、主体的・協働的に探究する児童を育成することができるであろう。

4 研究内容と具体的な取り組み

〈研究内容〉

研究仮説をもとに、布野 style の授業づくりを通して次の内容に取り組みながら、研究を推進する。

〈具体的な取り組み〉

(1) 問い

児童生徒が問いをもち、課題に向き合うために、教師は問いの設定（問いのたね）を工夫する。

【令和7年度に集めた問いのたね】

	「情報不足」	「他にも？」
<ul style="list-style-type: none"> ① 数を隠す ② 情報不足 ③ 既習と比較 ④ いつも通りと思いきや… ⑤ もっと「はかせ」で ⑥ ゲームに勝ちたい ⑦ 他にも？ 		

(2) 対話

「対話」は以下のように定義し、前年度までの取組をさらに躍進させる。

- ・「もの」との対話・・・教材や事象などに繰り返し立ち返る。
- ・「他者」との対話・・・「おたずね」「問いかけ」をベースとし、友達に訊く。
- ・「自分」との対話・・・自分の知識や経験、疑問、気付き等を関連付けたり整理したりする。

単なる会話にならないよう、見方・考え方に迫る対話になるよう指導する。教科の本質に迫る深い対話ができるようにするためには、対話の土台作りが必要である。そのため、トーキングタイムを通して、対話の技法（資料1）を獲得し、対話が楽しいと思えるようにする。

また、思考ツールを活用しながら話し合うことで、更に対話が深まり、新たな価値の創造に繋がる。そうした学び合いの中で、自然と児童が思考ツールを選択・活用できる姿を目指していく。

そのために、小学校低学年段階では、様々な思考ツールを知ることが必要である。そして、高学年段階では、知識として得た思考ツールを、対話で必要だと思う場面で、最適な思考ツールを選択・活用していけるよう、全学年系統立てて行う。

(資料1) 対話の技法の例

一1 「おたずね」に特化した対話の技法

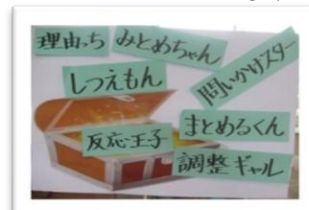
提案	「じゃあ・・・」「・・・はどう？」
確認	「どういうこと?」「・・・って何?」
質問	「なんで?」「どうして・・・なの?」
発話の促し	「〇〇さんはどう?」「意見はある?」
反論	「でも・・・じゃない?」
言い換え	「それって・・・だよな?」

一2 更に深めるための対話の技法

理由付け	「だって・・・」「・・・だから」
受容	「そうだね」「わかるよ」
補足	「それに・・・」「しかも・・・」
整理	「ちょっとまとめるね」
逸脱の修正	「さっきの話だけど」「もとに戻そう」
相づち	「うん」「なるほどね」「たしかに」
ユーモア	(雰囲気や和ませるユーモア)

これらのコツを使っていくことで、聴き手が育ち、話がつながり広がっていく。その結果、話し合いが進み、深まり、まとまっていくことで、話し手が育つ。

「話し合いの宝箱 (対話の技法)」を子どもたちがネーミングしていくのもいいですね!



(2) 振り返り

振り返りでは、次の3観点を意識した振り返りにする。振り返りシートを参考に振り返られるよう、振り返りの時間を確保する。

- ・教科の目標達成に迫ることのできる「振り返り」の記述の充実。＝到達度
- ・学習活動の軌道修正を図り、自己調整につながる「振り返り」の充実。＝学び方
- ・学習意欲を向上させ、学習者主体の学びとなる「振り返り」の充実。＝次へ

【振り返りのシート】

① 到達度は? ←
(～ができた、～がわかった、ここまでわかった、←
ここがわからなかった)←

② どうやって学んだから? ←

←何でも～すると
もう一度～すると

前の学習の～を使うと
前の学習の～という考え
方と似ている

〇〇くんの～という考え方で、〇〇さんが～と言ったから

③ 次どうしたい? ←

② どうやって学んだから? 例文 ←

⇒何でも〇〇すると、△△だと納得できた。←

⇒〇〇に着目して考えたら、△△だと分かった。←

⇒〇〇と考えると、問題が解決できた。←

⇒〇〇の方法を試したら、できた。←

⇒〇〇したけど、まだわからない。←

⇒前の学習の〇〇の考え方をを使うと、解決できた。←

⇒前の〇〇の考え方を△△のようにレベルアップさせたらできた。←

⇒〇年生で学習した△△を使ったら、□□だと分かった。←

⇒これまでは〇〇だったけど、今日の学習で△△ができるようになった。←

⇒〇〇さんの△△という考えを聞いて、□□だと分かるようになった。←

⇒〇〇さんと△△くんの方法は、□□だと思った。←

⇒答えは同じになるけど、〇〇さんの△△の方法がやりやすいと思った。←

⇒〇〇さんの方法でやってみると、△△だと分かった。←

5 検証の指標と検証方法

検証の指標	検証方法	検証時期
児童・テスト結果	国語科・算数科のまとめテストの総合得点において、目標値を上回る教科の割合を80%以上（12教科中9教科以上）にする。	1月
	国語科・算数科の単元末テストにおける到達度をそれぞれ85%以上に する。	学期末
児童・意識調査 （3～6年）	① 自分は、地域や社会のためにできることがある ② 自分の力で地域や社会を変えることができる ③ 今学習していることや体験していることは、将来役に立つと思う の肯定的回答を80%以上にする。	学期末
児童・意識調査 （全校）	④ 分からないことはそのままにせず、分かるまで努力している ⑤ 友達と対話をすることで自分の考えが深まると思う の肯定的回答を80%以上にする。	
指導者・意識調査	「布野スタイル（問い・対話・振り返り）の授業を通して、主体的・協働的に探究する児童になっていると思う」の回答を80%以上にする。	学期末

6 研究推進の方向・具体的な方策

<p>(1) 理論研修（4月～5月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究主題、布野 style の在り方について理論研修を行い、全指導者が共通認識をもって取り組む。 <p>(2) 授業研究の実施（6月～1月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「問い・対話・振り返り」の授業づくりに沿った参観授業を行い、実践からの学びを全員で確認し取り組むことで、指導力の向上を図る。 学期に1度、対話の実践交流を行い交流する。 <p>(3) 小中連携（学期1回程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究主任が集まり、双方の研究の情報交流等を行う。時には授業参観を行う。 <p>(4) 研究のまとめと次年度の研究推進の計画立案（2月～3月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 検証の指標に沿って分析し、次年度に向けての方向性を確認する。

【学校教育目標】 「自信と安心」

自らとふるさとに誇りを持ち、より多くの仲間とともに、夢や志に向けて主体的に活動する児童の育成

【布野中学校区が育成を目指す資質・能力（布野っ子4大パワー）】

<p>生きて働く知識と技能</p> <p>各教科等において習得する知識や技能。(活用可能な概念化された知識や技能まで含む。)</p>	<p>調整力</p> <p>創造的・批判的に思考し、自分の考えを構築する力。</p>
<p>主体性</p> <p>自ら進んで粘り強く取り組み、学びに向かう力。</p>	<p>自らの自信</p> <p>自己の成長を感じ、さらに挑戦する原動力。</p>

【研究主題】

主体的・協働的に探究する児童・生徒の育成
 ～布野 style (問い・対話・振り返り) の授業づくりを通して～

【研究仮説】

「問い」「対話」「振り返り」を軸に、見方・考え方を働かせた探究的な授業づくりを行い、各教科等と総合的な学習の時間で育成された資質・能力を往還させることで、主体的・協働的に探究する児童を育成することができるであろう。

